

ブックバンクプロジェクト

～学生が挑む格差対策～



沖縄県の子どもの貧困率や、月にかけられる教材費の全国との差を目の当たりにし、3年間の調査を基に「学生ができる事」を追求したのちにブックバンクプロジェクトは生まれました。様々な試行錯誤や外部団体との交流を行いながら、活動の持続、拡大を目指して現在は校内での活動を行っています。

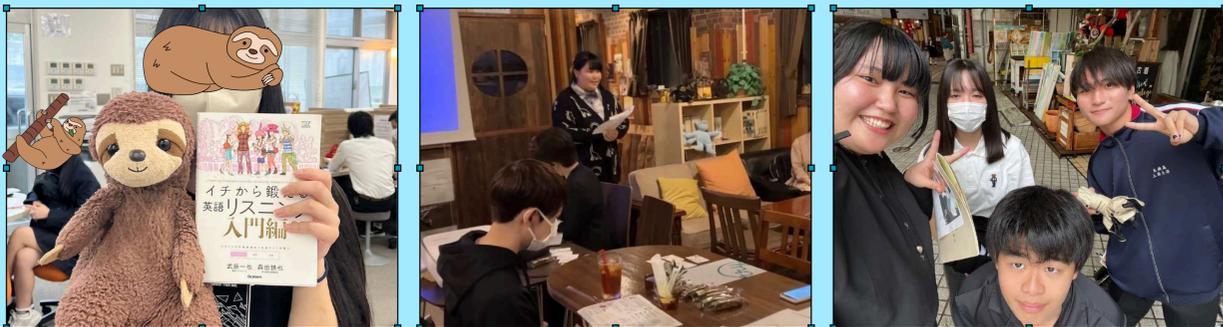
本の循環が学びの選択肢を増やす

格差問題に対して、私たち学生でもできる事を考え行動していきたいという思いからこの活動をスタートさせました。沖縄県は教材に平均で210円しかかけることができない現状にあり、本を一冊購入するのに数か月かかってしまいます。しかし、私たちが本を提供することによって様々な学びを届けことができ、さらに使われるはずだった教材費を別の活動に充てることで**新しい機会を生むことができるかもしれません。**

私たち子どもの未来を平等に切り開いてくれるのは勉強や教養だと思います。体験格差や、教育格差の主な要因は不登校と経済的な困窮です。同じ時を生きる子どもとして、ともに未来を切り開いていきたいと思っています。



活動の様子



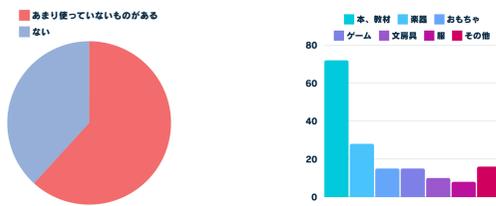
沢山の本を届けよう

課題意識 ～月の教材代は210円～

沖縄県の子どもの貧困率は29.9%と、日本の中でも一番深刻な状況にあります。



ブックバンクプロジェクトは、使われていない本を学生から回収し、中高生へ届ける活動です。沖縄県の教育費は約4,300円ですが、教科書・参考書に使われるのはわずか**210円**です。



本校のアンケートでは、約6割の人が使っていない本があると答えました。

この活動により、子どもたちが知識や教養に触れる機会が増え、本を通じて新しい世界を知る体験ができます。本には教育的側面と体験的側面が期待できます。

活動内容①～キャンパス内での活動～

5月から自分たちのキャンパスで試験的に「ブックバンクプロジェクト」を始めており、現在は外部での活動に向けて広報や景観、本の選定などについての試行錯誤を行っています。キャンパスでの活動では親しみやすさを考えて「無料の本屋さん」という名前で始めました。現在、提供回収含め8名ほどに利用してもらっている中では英検の参考書の需要が高いです。



活動内容②～キャンパス外での活動～

- ・市内の児童館にて学習支援と共に子どもたちに本に触れるきっかけ作りを行っています。学習や読書に拒絶感を示す子どもが多く、最初の月はなかなかうまくいかなかったが、子どもたちとの関係づくりの中で、小さな**好奇心を一緒に追求すること**をコツコツ積み上げていきました。現在は学習についての相談や教えて欲しいとお願いしてもらえることも増えています。
- ・外部との交流も活発に行っており、地域の市民活動交流会で高校生や大学生の活動を行っている皆さんと意見交換をしたり、地域の居場所的存在であるカフェにて活動についてお話し、学校関係者やNPO 法人代表の方に意見を貰い、活動のブラッシュアップを行っています。そして那覇市社会福祉協議会の那覇市人材データバンクにて団体登録を行い、活動の継続や拡大に向けての準備を進めています。
- ・貧困層向けの不登校支援を行っている子どもの居場所で話を伺った際、貧困の壁の大きさを強く感じました。特に生活保護を受給している家庭の子どもにとって、大学進学とそのための勉強のハードルは非常に高く、「大学のために勉強しよう」という**意識を持つことが難しい**現実があります。そのため、教材を提供することが困難です。今後の活動は貧困層に限らず、進路のために教材を必要としているが経済的理由などで購入が難しい子どもたちに向けて本を提供していこうと考えています。こうした子どもたちが集まる場所は学校であるため、今後は**高校での活動**を行いたいと考えています。

本のかで繋がる高校生

今は外部の高校での活動の計画しています。この活動の1番の目的は、様々な子どもが利用する最も間口の広いプラットフォームが学校であるという認識のもとブックバンクの活動を広く周知してもらうことです。

仕組みがうまく機能するかどうか、どのような弊害が発生するかといった問題がありますが、参考書リレーというブックバンクとほとんど同じ仕組みを行なっている高校があり、それを参考にして対策を行いたいと考えています。

どこの高校においてブックバンク活動を行うかを考えると、本が集まりやすく受け取られやすいよう、比較的人数の多い高校でありまた学習意欲や本を求める人が多い高校を考えています。

受賞歴

- ブックバンクの周知活動の一環として学校内外でのコンテスト出場も行っており、以下の受賞歴があります。
- ・トライチームプレゼンアワード2023 九州大会 1位
- ・OAC学生アイデアで社会をより良くするコンテスト ブロンズチェンジャー



活動団体プロフィール

教育格差や体験格差に対して学生ができる事を考えて行動していくことを目的とし、チームアノミーを設立。3年間にわたる沖縄県子どもの貧困問題に関する調査ののち、「自分たちが今できる最大限を」を合言葉に学習支援ボランティアやブックバンク等といった活動を行ってきた。

